これが私の指導法
～知的財産の継承～

第四小学校
教諭
後藤加奈子

「主体的・対話的で深い学び」の視点から、私が算数科で実践したことを紹介します。

これまで対話的な学びとなるよう、席が近くの友達と組になるペアやグループによる活動を多く取り入れてきました。しかし、ただの意見交換で終わってしまうことが多くありました。

そこで、対話的な深い学びを構築するために「対話に向かう必要感のある学習場面の設定」と「対話によるゴールの明確化」に留意し、授業構想を見直してみることにしました。

算数科の平行四辺形の特徴を見付ける学習では、一人一人が違う形の平行四辺形を調べ、それを持ち寄り、どの平行四辺形でも共通していることを話し合うという方法をとってみました。

子供たちはそれぞれ形が違う平行四辺形なので、責任をもって調べなければいけません。一人一人の問題（課題）が違うことで共通点を探すという話し合う必要性も出てきます。これまでより活発な話合いとなりました。

単元によって、同じ問題（課題）を調べた人同士、違う問題（課題）を調べた人同士など、グループの構成を工夫することで、話合いに必要感が生まれ、学びを深めることになるのではないか思います。

また、話し合うときには、何のために話し合うのか、話合いのゴールは何なのか、はっきりと提示するように心がけています。先の平行四辺形の特徴を見付ける学習で、目的が「どの平行四辺形にも当てはまる共通点を見付けるための意見交流」、ゴールは「平行四辺形の特徴の完成」としました。うまくいかないことが多いですが、これからも模索しながら実践していきたいと思います。

我が校の実践

能代南中学校
教諭　佐藤　孝子

『一致団結！すすめ南中』

本校の自慢は「掃除」「あいさつ」「合唱」。これを誇りとして生徒は日々の活動に励んでいる。職員室の雰囲気は明るく真剣。ベテラン陣の層が厚く、若手をリードしつつ、強健なチームワークで歩みを進めている。

①学びの確実な定着を目指した三つの学びの場の実践

今年度は授業過程の在り方を見直し、「三つの学びの場」を意識した実践をスタートさせた。多様な意見を交流させ、気付きにつなげる「つながる場」、学びを実感し、価値付ける「確かめる場」、知識を関連付けて深め、生み出す「生かす場」の三つである。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、これらの三つの場を授業に確実に取り入れる。毎時取り入れるとなると少し困難に感じられるかもしれないが、実はこれまで実践してきたことを三つの場に整理して提示しているとも言える。この実践の積み重ねで、生徒は学びの中での立ち位置を確認し、次の学びへと広げていくことができる。

②授業を生かす家庭学習

本校は授業には積極的であるが、定着率の低さが課題となっている。そこで、今年度は家庭学習の内容にスポットを当て、全校統一のノートづくりを進めている。また、家庭学習コンクールを行い、よいノートを展示して教師や生徒のコメントを付箋に記入して貼る。ノートづくりのポイントが付箋に示してあるので、参考にしやすい。

元気な挨拶を交わし、ピカピカに校舎を磨き上げ、心を一つにして合唱する。そして全校で学びの充実に向かう、そんな南中をつくるため、教師と生徒が一致団結して邁進している。

編　集　後　記

新年度スタートから3か月。忙しさの中に子どもたちの心身の成長を感じる場面も多いのではないでしょうか。

今年度も「教育のしろ」は年4回発行いたします。各学校と先生方の様々な実践、そして生き生きと活動し、共に学び高め合う子どもたちの姿などをお伝えしていきたいと思います。

令和第1号に当たり、玉稿をお寄せくださった方々に心から感謝いたします。（M）